

## (行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

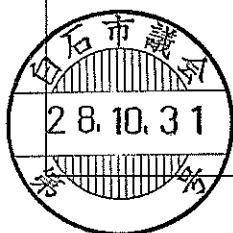
平成28年10月31日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 澁谷 政義

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年10月24日 ～ 10月25日
調査・研修先	市町村アカデミー（千葉市美浜区）
調査事項 (研修事項)	市町村議会議員特別セミナー ～災害に強い地域づくり～
対応者・講師等	古村 孝志 氏（東京大学地震研究所副所長、災害科学系研究部門教授） 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長） 目黒 公郎 氏（東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター長・教授） 中邨 章 氏（明治大学教授）
概 要	<p>「1日目」 10月24日（月）</p> <p>1時限目 13:30～15:00</p> <p>講演「巨大地震と津波、そして火山噴火—発生メカニズムと備え—」</p> <p>講師 東京大学地震研究所副所長、災害科学系研究部門教授 古村孝志氏</p> <p>(1) 地震災害への備え</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>都市直下で起きる地震 <ul style="list-style-type: none"> <li>最大震度7の激しい揺れ</li> <li>長引く余震活動</li> </ul> </li> <li>地震の強い揺れと被害 <ul style="list-style-type: none"> <li>周期1～2秒成分の強度が木造家屋被害に直結</li> <li>断層のごく近傍では、断層の動きによる被害も</li> </ul> </li> <li>繰り返す内陸活断層地震と被害 <ul style="list-style-type: none"> <li>軟弱地盤による揺れの強い増幅・被害</li> <li>活かされない事前想定。災害伝承の難しさ</li> </ul> </li> </ol> <p>(2) 地震災害への備え</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本の高い地震活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>小さな地震が毎日320個検出されている日本</li> <li>最近地震が多いわけではない</li> </ul> </li> </ol>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸活断層の地震（千～万年毎）危険度は高いが、発生確率は小さな値西にしかならない</li> </ul> <p>2、東北地方太平洋沖地震の巨大津波・揺れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M9地震の断層のずれ動き+海溝軸付近の大すべり</li> <li>・地震地殻変動による、海岸線の沈降</li> <li>・数分続く、巨大地震の大きく長い揺れ</li> <li>・地盤災害（崖崩れ、液状化）</li> </ul> <p>(3) 地震災害への備え</p> <p>1、大きく揺れる場所、被害が起きる場所は既知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人は、揺れやすい地盤に澄む</li> <li>・同じ地域で繰り返す地震災害、過去の被害に学ぶ</li> </ul> <p>2、巨大大地震の想定のお考え方の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に備える既往最大級の地震</li> <li>・頻度は低いが、被害が甚大な最大級</li> </ul> <p style="padding-left: 2em;">* 2つの想定の意味、扱いを十分に考える</p> <p><b>2時限目 15:15～16:45</b></p> <p><b>講演「熊本地震から学ぶこと」</b></p> <p><b>講師 国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長 林 春男氏</b></p> <p>(1) 阪神淡路大震災以降の20年を振り返ると</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な地震災害が繰り返し発生している</li> <li>・「被害抑止力」は不十分       <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の防災の特徴：構造物による高い予防力</li> <li>・被害に発生を前提とした対応を整備する必要性</li> </ul> </li> <li>・今後の防災・減災の在り方       <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防力+回復力=レジリエンス</li> <li>・レジリエンスの向上（2005年国連で使い始めた）</li> <li>・構造物によらない予防力+回復力の向上が急務：災害情報の活用</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 主要活断層帯</p> <p style="padding-left: 2em;">活断層全部で2000余り</p> <p style="padding-left: 2em;">主要活断層活動度や活動した際の社会への影響度等を考慮し、基盤的な調査対象とされる97断層帯</p> <p style="padding-left: 2em;">日奈久断層は危険度NO1</p>
--	---

平成28年熊本地震の5つのポイント

◇ハザードの状況を把握・その意味を発信する

- 1) 震源域の推移：中央構造線に沿って東に動く可能性
- 2) 阿蘇山の動静
- 3) 南阿蘇村を中心とする土砂災害と今後雨期による被害拡大

◇広域な震度6強以上のゆれで発生した大規模な災害への対応を支援する

- 4) 効果的な応急策を実現するために、防災関係者でどう情報共有し状況認識の統一を図る
- 5) 効果的な生活再建のための、災害者台帳による生活再建支援システムの導入

「2日目」 10月25日（火）

1時限目 9:00～10:30

講演「災害情報の有効な利活用と危機管理—災害対応におけるメディアとの連携と災害報道—」

講師 東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター長・教授 目黒 公郎氏

◇東日本大震災の教訓

東北地方太平洋沖地震と東日本大震災の特徴

- 1) 広域な被災地（災害対策基準法の限界、後方支援）
- 2) 地震動による揺れ被害
  - ・記録された地震動の強さの割に少なかった構造物被害
  - ・地盤災害
  - ・非構造材の被害（天井の落下）
  - ・津波による溺死（92,4%、1.8万）
- 3) 津波が及ぼした甚大な影響（直接・間接的）
- 4) 都市圏が受けた被害・影響
- 5) 原発事故が誘発する各種の問題
- 6) 政治・経済・エネルギー政策、幸福観の転換点

◇復興のビジョン：将来の繁栄の礎となる創造的復興

四原則：

- ・被災地域の豊かで安全な生活環境の再興とともに、日本の将来的課題の解決策を示す復興
- ・政府、自治体、企業、NPO/NGO、国民、そして被災地域の人々が連携し、知恵と財源を出し合う協議をした復興

- ・低環境負荷、持続性、地域産業再興に配慮した復興
- ・前提条件の再吟味に基づいた復興（想定外をなくすために）

◇我が国の防災／危機管理のあるべき姿のまとめ

- 1) 我が国の経済状況
  - ・借金:1,008兆6,281億円、労働力の急激な減少
- 2) 将来の被害を減らす事前対策とこれを実現する環境整備
  - ・リスクコントロールに貢献する金融モデル（地震保険）
  - ・防災格付け金融モデル（コストからバリュウへ）
- 3) 現象先取り、防災行動誘導型報道／情報提供（いつ、だれに、どんな情報を、どのように提供するか）
  - ・マスコミ報道、行政による市民への情報提供、外国人への対応策
- 4) 事後の人材確保
  - ・国内、国外
- 5) 業務の効率化と業務量の軽減策
  - ・合理的な地域防災計画の作り方
  - ・災害情報システム（行政、病院）／防災マニュアル
  - ・被災度判定業務の合理化（10倍の効率化）
  - ・仮設住宅の建設業務（被災者の分類と新しい仮設住宅のあり方）
- 6) 防災／危機管理ビジネスの創造と育成（国内外への展開）、防災教育（災害イメージーションの高い人間づくり）

2時限 10:45～12～15

講演「防災と危機管理—期待される地方議会の役割—」

講師 明治大学名誉教授 中邨 章氏

【大震災から学ぶ論点】

- 1) 公助依存と自治意識
  - ・大災害のなかでの秩序
  - ・公務員の働き—評価不足
  - ・法治（行政法）と公平
  - ・外国の事例—略奪（ルーティング）と混乱
- 2) 防災対策のこれまでと議会の役割
  - 1、これまでの危機管理—自己完結型
    - ・地域防災計画（法40.42条）（単一の自治体による処理、事案単位のマニュアル、読まれない資料、議会は部外者）
  - 2、危機管理対策の落とし穴
    - ・民間・NPOとの連携不足（進展の遅い官民協力体制帰宅難民）

<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府間関係の混乱→上をみるクセ（届かない被災地からの要請）</li> <li>・法 96 条→地域防災計画の議決事件化</li> </ul> <p>3、行政課題と議会のチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・透明性と説明責任</li> <li>・例外と不規則への対応（前例、横並び、中央政府への照会）</li> <li>・非ルーチン化業務への体制強化</li> <li>・期待される議会の役割</li> </ul> <p>4、避難所の欠陥を議題に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の残る避難所（消防防災センター「避難しやすい環境」）</li> </ul> <p>3) 制度構築に動く議会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、議会对応の現状</li> <li>2、地区防災計画と議員の機能</li> <li>3、議会版・業務継続計画</li> <li>4、議会版・BCPの制度化</li> <li>5、心理的応急処置と議会人</li> <li>6、危機と情報—議会の啓蒙活動</li> <li>7、危機状況の議会活動</li> </ol> <p>4) 防災教育と議会—意義と方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、重視される危機の四識</li> <li>2、資金不要の事前準備—議会の役割</li> </ol> <p>5) 消防、消防団と自主防災組織</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、消防広域化の要請と課題</li> <li>2、消防団の現状と課題</li> <li>3、消防団組織の改善</li> <li>4、近隣住民の共助と自主防災組織</li> <li>5、自主防災組織の組織率</li> </ol> <p>市町村議会議員特別セミナー・～災害に強い地域づくり～についての講演 地域の防災・減災への取り組み、危機管理の在り方、災害発生時の議会及び議員の役割等を、2日間4講師の専門的内容の講演を受講しました。</p> <p>地震の発生メカニズムは解明されていても予測はなかなか容易ではないが繰り返し地震は発生し被害が出ている。軟弱地盤地帯は揺れも強く被害も増大しているが過去の事例が活かされていない。災害伝承の難しさを未来は乗り越えなければならない。今年4月に発生した熊本地震（布田川・</p>
------------	---

日奈久断層)は発生率が高く繰り返し起きていた。日本全国で、いつ発生してもおかしくない巨大地震にどのように備えるか、地域(地区)が発生の備えとして、図上訓練・危険予知トレーニング(KYT)は、資金不要の事前準備であり取り入れるべきと考える。

議会対応としては、アンケート調査から見ても地域住民と連携した災害対応が期待されている。議会が見えない等の批判も受けるが、見えるように(可視化)することも必要。(提案・どこからでも目立つジャンバー等を自費で備えるべきと思う。背には白石市議会と目立つように入れる)

今回の講演は、中身が凝縮し、やる気があれば直ぐにも実施できそうな内容も数多く組まれていました。今後、白石市独自の市民のために生命と財産を守る防災・減災を提案していきたいと思います。